

# 特別支援学級 生活単元学習指導案

対 象 わかば・あおば学級 男12名 女7名 計19名  
指導者 畠山里世子(T1) 大向 久美(T2) 橋田 孝(T3)  
尾藤久美子(T4) 工藤 郁子(T5) 阿部 尚子(T6)

## 1 単元名 レストランを開こう

## 2 単元について

### (1) 児童について

本校特別支援学級には、知的障がい、情緒障がいがある児童が在籍している。主障がいの他、肢体不自由、広汎性発達障がい、心疾患を併せもつなど、障がいが重複していることもある。また、自閉症、高機能の広汎性発達障がい、ADHDの児童が在籍することもあり、個別の教育ニーズが多岐にわたっている。

児童は、明るく素直で与えられた課題にまじめに取り組んでいる。反面、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の中で生かすことが難しいため、自分のよさに自信がもてず、主体的に活動に取り組みずにいる。また、コミュニケーションにおいては、人とかかわることが好きで、友達と仲良くしたいと考えている児童が多い。反面、相手の気持ちや立場を理解することが苦手なため、状況の把握ができず、場面に合わせた行動と言葉遣いが難しい。

本単元には、教科指導では身に付き難い数の計算・量の測定及び文字表記の学習内容を必要感の伴う実体験の中で身に付けるねらいがある。また、生活単元学習に「自己理解」の視点を生かした指導をすることにより、主体的に学習に取り組む児童を育成できるのではないかと考え、本単元を設定した。

### (2) 教材について

本単元「レストランを開こう」は、「自分や友達のよさが分かり自己選択しながら主体的に活動できる」「おもてなしの心を伝えることができる」ことをねらいとし、収穫した野菜をどのように活用していくか考え、レストランを開くことを計画し、レストランの成功を目指して、多様な役割を分担しながら協力して準備し、活動していく単元である。

児童は今まで「八百屋さんを開こう」の単元学習の中で、産地直売施設の見学や収穫した野菜が加工品として販売されたり、レストランで調理されて提供されたりしていることを学んだ。児童は、野菜が調理され変化する過程に興味をもち、「やってみたい」と感想をもった児童も多かった。そこで、本単元では、学級園で収穫した野菜を調理して自分たちで食べるだけでなく、野菜を育てたり収穫したりしたときにお世話になった方々へ感謝を伝える方法として「レストラン」を開くことを自分たちで計画し、感謝の気持ちを伝える機会としたいと考えた。

レストランの準備に当たっては、実態に応じて国語、算数、図画工作の教科学習とも関連させながら、レシピづくり、招待状づくり、ちらしづくり、金銭の取り扱い方についても指導していく。また、それぞれが自分のできる役割を選択する場面を設定したり、グループで協力して準備する活動を取り入れたりするなど、段階的に「自己理解」の視点を取り入れた活動を工夫していくことで児童同士の良好なかかわりを広げ、主体的な活動に結び付けていくと考える。

本単元で身に付けた力は、「クリスマス会をしよう」「振り返る会をしよう」「進級・卒業を祝う会をしよう」の単元へ生かされていく。

### (3) 指導について

今まで、本校特別支援学級では学校生活全体を通して「自己理解」の視点を取り入れた活動として「自分の特性（得意なこと・苦手なこと）を知る」「自分や友達の好きなものを知る」ことを段階的に指導してきた。

本単元では、「自己理解」の視点を取り入れた活動として「自分ができること」「自分が得意なこと・好きなこと」を意識して、役割や活動を選択する場面を設定していく。また、グループごとの活動では、「自分ができる方法」や「自分の得意なこと・好きなことを織り交ぜた方法」で活動したり、意見を交流する中で、お互いに教え合ったり新たな工夫をしたりできるよう、相手

の話をも最後まで聞くことや相手の意見のよさに注目できるように聞き方のめあてを児童に考えさせていく。

また、児童が活動の見通しをもち、主体的に活動できるように、単元のはじめには児童が自分たちで創り上げる楽しみをもてるよう、レストランの写真やお菓子の本を掲示したり、企画会議で児童自らレストランの名前や店のコンセプト、おもてなしの合言葉、メニューを考えたりしていく。グループ編成に際しては、自己選択を軸に決定し、上学年がリーダーとなり活動を牽引していく。作業分担では、児童の発達段階を考慮するとともに様々な体験もできる機会としたい。

さらに、「振り返り」の場では、実態に応じて記入しやすい「振り返りカード」を工夫し、肯定的な自己・相互評価ができるようにしたい。

以上の活動を成功体験として認識させ、児童の自信を高めることにより前向きな自己理解へとつなげ、児童の主体的な活動を促していきたい。

発達段階	自己理解の内容	発達段階	自己選択の内容
I	・自分のよさに気付く。 ・先生や友達に褒められたり、認められたりしながら、自分に自信をもつ。	I	・自分の好きなもの、興味のあるものを選ぶ。
II	・自分と友達によさに気付く。 ・先生や友達に褒められたことをもとに、自分のよさへの理解をより一層深める。	II	・自分の好きなもの、興味のあるものを選ぶ。 ・自分に合っていると思うものや頑張ればできそうなものを選ぶ。
III	・自分と友達によさに気付き、そのよさを互いに認め合おうとする。 ・先生や友達に褒められたことをもとに、自分や友達によさへの理解をより一層深める。	III	・自分の特性に合っていると思うものを選ぶ。 ・自分がやった方がいいと思うもの、自分の成長のために挑戦した方がよいものを選ぶ。
IV	・周りからの意見を素直に受け入れて、自分を知ろうとする。	IV	・自分のスキルアップのためにやるべきことを選ぶ。

### 3 単元の目標

○ おもてなしの心を伝え、レストランの活動を楽しむことができる。

(1) 関心・意欲・態度

準備や調理、おもてなしの活動を主体的に行うことができる。

(2) 自己選択

役割分担で、自分に合っていると思うものや頑張ればできそうなものを選ぶことができる。

(3) 自己理解

活動を通して自分や友達によさやがんばりに気付き、認め合うことができる。

### 4 指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準
前単元	「迎える会」「七夕会」「誕生会」「お店を開こう」「振り返る会」	・自分の役割を果たし、活動を楽しんでいる。(関) ・自分ができることややりたいことを選んで活動している。(選) ・自分や友達によさやがんばりに気付き、認め合っている。(理)
1	○どうする？野菜 野菜の活用でやってみたいことを出し合う。	・野菜の活用でやってみたいことを見付け、発表している。(関)
2	○レストランを開く計画を立てよう。 レストランを開くために必要な準備について考える。	・高学年・・・出されたものの中から選んで、計画を立てている。(関) ・低学年・・・レストランを開くために必要な準備について考え、発表している。(関)
3	○レストランのメニューを決めて、グループをつくろう。 メニューを決め、調理グループと各担当を決める。	・野菜を活用したメニューを考えている。(関) ・選んだ理由を明確にして担当を決めている。(選・理)
4・5	○協力しておいしいお菓子を作ろう。 グループ毎に調理練習をする。	・おいしいお菓子を作るために自分の担当を進んで行っている。(関) ・更においしくするための工夫を考えている。(関) ・高学年・・・下学年の世話をしながら、調理をしている。(関) ・低学年・・・高学年の指示を聞き、自分の担当を行っている。(関)

6	○レストランに必要な物を考えて、グループを決めよう。 レストラン開店に必要なものを考え、制作グループと各分担を決める。	・おもてなしのポイントを踏まえて、必要なものを考えている。(関) ・選んだ理由を明確にして分担を決めている。(選・理)
7・8	○レストランのリハーサルをしよう。 レストランの仕事を考えて、分担する。 おもてなしの仕方を考え、練習する。	・レストランの仕事やよいおもてなしの仕方・台詞を考えている。(関) ・選んだ理由を明確にして分担を決めている。(選・理)
9・10	○お菓子の材料を買いに行こう。 グループ毎に買う物と分担を確認し、買い物の仕方を学習する。 買い物をする。	・自分の分担が分かり、買い物を進んで行っている。(関)
11・12	○協力しておいしいお菓子を作ろう。 グループ毎に調理の準備をし、調理する。	・おいしいお菓子を作るために自分の分担を進んで行っている。(関) ・高学年・・・下学年の世話をしながら、活動をしている。(関) ・低学年・・・高学年の指示を聞き、自分の分担を行っている。(関)
13・14	○レストランの会場準備をする。	・おもてなしの心が伝わるよう会場準備をしている。(関)
15 【本時】	○レストランを開店する。	・自分の分担を進んで行い、レストランの活動に取り組んでいる。(関) ・言葉遣いや態度を意識しながら、おもてなしの心を伝えようとしている。(関) ・自分や友達のがんばりに気付いている。(理)
16	○単元の学習を振り返ろう。	・自分や友達の良いところやがんばりに気づき、そのよさを互いに認め合っている。(理)

## 5 本時の指導

### (1) 目標

自分の分担を進んで行い、レストランの活動に取り組む。

言葉遣いや態度を意識しながら、おもてなしの心を伝える活動ができる。

### (2) 評価規準

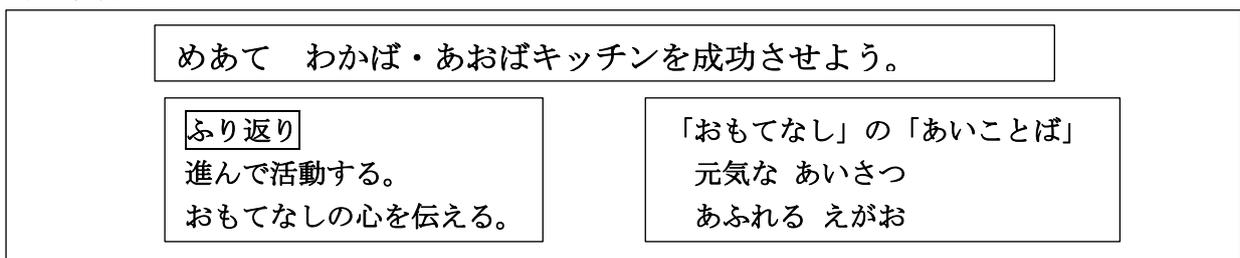
評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	自分の分担を進んで行い、レストランの活動に取り組んでいる。 言葉遣いや態度を意識しながら、おもてなしの心を伝えようとしている。
自己理解	自分や友達のがんばりに気付いている。

### (3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価	教材・教具
導入 2分	1 めあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">わかば・あおばキッチンを成功させよう。</div>	● 配置図で準備物の確認をする。  ● 高学年のリーダーが、チームをまとめ活動することをカードで確認する。 ● 振り返りの項目をカードで確認し、意識化を図る。 ・進んで活動する。 ・おもてなしの心を伝える。	配置図 カード 時計
展開 35分	2 活動 (1) 係毎のミーティングをする。 (2) レストラン開店のあいさつをする。 (3) レストランを開始する。	● 係のリーダーが、参加者に向けて「おもてなしの気持ち」を伝えてから、活動を始めるようカードで確認する。また、全員で声を出し、開店に向けての意欲を高める。 ● 指導者は、それぞれの係の児童を支援する。 案内係 (T1) オーダー係 (T4) 厨房係 (T2) お客様係 (T3) B 児の支援 (T5) H 児の支援 (T6)	カード

	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内係 あいさつをする。 席に案内する。</li> <li>オーダー係 あいさつをする。 注文を伺う。</li> <li>厨房係 注文を確認する。 衛生面に気を付けて、配膳する。</li> <li>オーダー, 厨房係 注文されたものを届ける。 客が席を立ったら、テーブルを片付ける。</li> <li>お客様係 食事を終えた客にレストランの評価をお願いする。 おもてなし評価ボードにシールを貼ってもらう。 (味・あいさつ・笑顔)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大きな声であいさつをしたり, 丁寧な言葉や態度で応接できるよう手順カードで支援する。 「いらっしゃいませ。」「ご注文は, 何になさいますか。」「おまたせいたしました。〇〇をお持ちいたしました。ご注文は, お揃いですか。」「ありがとうございました。」</li> <li>● 衛生面に気を付けて, オーダー通り配膳できるよう配膳カードで支援する。</li> <li>● 客の様子に目を配り, 食事を終えた人に声をかけるタイミングを教える。</li> </ul>	<p>手順カード</p> <p>配膳カード</p> <p>おもてなし評価ボードシール</p>
終末 8分	3 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返りカードで自己評価・相互評価させる。</li> <li>◎ 自分の分担を進んで行い, おもてなしの心を伝えることができたか考えている。 自分や友達のがんばりに気付いている。 (すごいところ, まねしたいところ) 喜んでもらえたか考えている。(観察)</li> </ul>	カード
	<p>【振り返り 例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんが、「おいしい」と言ってくれたので嬉しかったです。</li> <li>・ホール係の A さんが, 大きな声ではっきりとあいさつをしておもてなしの心が伝わったと思います。</li> <li>・厨房係の B さんが, きれいに盛り付けをしていたので, お客さんが喜んでくれたと思いました。</li> </ul>		
	4 次時の確認	● 次時は, 単元の学習を振り返ることを確認する。	

(4) 板書計画



(5) 配置図

